

ロータリークラブ会長殿

CLP導入に関する地区方針（案）

2005年10月24日

国際ロータリー 第2820地区

2005-2006年度

ガバナー 萩原 允雄

ガバナー・エレクト 佐藤 衛

地区研修リーダー（P・G） 清水 清

日頃よりクラブの活動を通して地区に対しご支援いただき、誠にありがとうございます。厚く御礼申し上げます。さて、題記の件について本地区の方針（考え方）を策定いたしましたのでご連絡申し上げます。ご理解頂きまして次年度に向けての対応をご配慮くださるようお願い申し上げます。

1. CLPの背景

今回RIより推奨されましたCLPの背景には、会員数の減少によりロータリークラブ本来の機能を失ってしまったクラブの存在があるようです。奉仕団体としてのロータリー組織ならば、ある程度の人員が必要であるはずで、20名を下回るクラブでは現行の委員会構成での、積極的な奉仕活動が困難となるものと判断されております。このような少人数のクラブでもロータリーとしての奉仕活動を可能にするための最小限度の管理組織を想定したものが、クラブ・リーダーシップ・プラン（CLP）であります。

RI理事会が推奨しているCLPの説明には、「危機に直面しているロータリークラブを再生させる妙薬」であることが示されております。また、クラブが果たさなければならない義務として、

- (1)「会員基盤の維持、拡大すること。」
- (2)「地元地域社会ならびに他の国々の地域社会のニーズを取り上げたプロジェクトを実施、成功させること。」
- (3)「資金の寄付およびプログラムへの参加を通してロータリー財団（日本では米山記念奨学会を含む）を支援すること。」
- (4)「クラブの枠を超えてロータリーにおいて奉仕できる指導者を育てるために、効果的なクラブ管理の枠組みを提供して、ロータリークラブの強化を図ること。」

の4項目が規定されております。

このような背景から、クラブの現状がこれらの義務を遂行するという条件を

満たしていない場合には、R I が推奨するC L Pを導入して、クラブの活性を促す必要があります。

なお、次年度（2006－07年度）の地区組織構成は、11月に予定されておりますG E T S（ガバナーエレクト研修会）において新しい方針が出る予定ですので、その後、検討および決定をさせていただきます。皆様のご理解とご協力をお願い致します。

2. 2820 地区のC L P導入に関する考え方

地区としてのC L P導入についての考え方は、以下に骨子を示すように次年度（佐藤年度）より対応して参りたく考えております。導入にあたりましてはクラブの自主性を尊重いたしますが、できる限りクラブ理事会並びにクラブ総会等での検討、決議を図られますようお願い致します。

- (1) R I が規定する条件を満たさない20名以下のクラブは、R I が推奨するC L Pの導入をお願いいたします。
- (2) 上記以外のクラブは現行の組織運営でも問題はありませんが、簡素化の視点からC L Pの導入のご検討をお願いいたします。また、R I の推奨案に示されております、常設委員会の名称を極力ご採用いただきたいと思います。（R I 会長賞挑戦の条件になる可能性があるため。）

(イ)従来の「クラブ奉仕第一委員会」を「会員組織委員会」に名称変更し、現行の会員増強、職業分類、会員選考、ロータリー情報、および広報委員会の任務をを掌握する。また、クラブ長期計画策定の機能を含むものとし、人員的に可能なクラブはそれぞれを小委員会としてもよい。

(ロ)従来の「クラブ奉仕第二委員会」は、「クラブ管理運営委員会」と名称変更し、出席、親睦活動、プログラム、会場、雑誌、会報、およびI T委員会の任務を包含するものとする。（人員的に可能なクラブについては、それぞれを小委員会としてもよい。）

(ハ)「奉仕プロジェクト委員会」は「クラブ奉仕委員会」を除く現行の四大奉仕委員会（職業奉仕、社会奉仕、新世代奉仕、国際奉仕）の任務を包含し編成する。（人員的に可能なクラブは、それぞれを小委員会とするのが望ましい。）また、米山奨学委員会は、従来通りに国

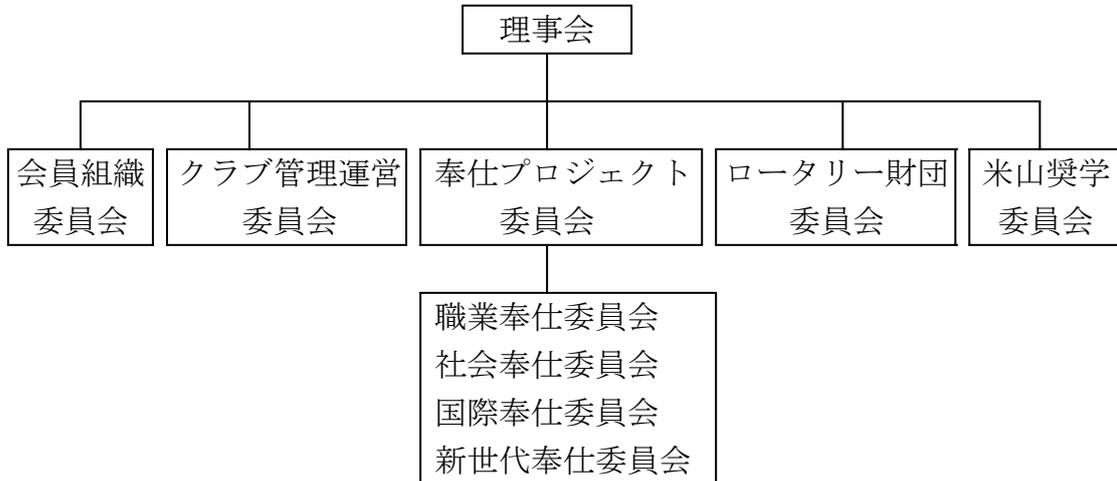
際奉仕に包含される形態としてもよいが、できるかぎり独立した委員会とすることが望ましい。

(ニ) ロータリー財団委員会は、従来の国際奉仕委員会の小委員会という形態から独立させ、財団プログラム委員会及び寄付推進委員会の機能を明確に持たせる組織とすることが望ましい。

(ホ) クラブ役員および理事の構成については、後述のクラブ委員会構成案ならびにクラブ理事会構成案を参考にして、各クラブにおいて決定していただきたい。

2820地区CLPに基づいたクラブ委員会構成案

(少数会員クラブの例)



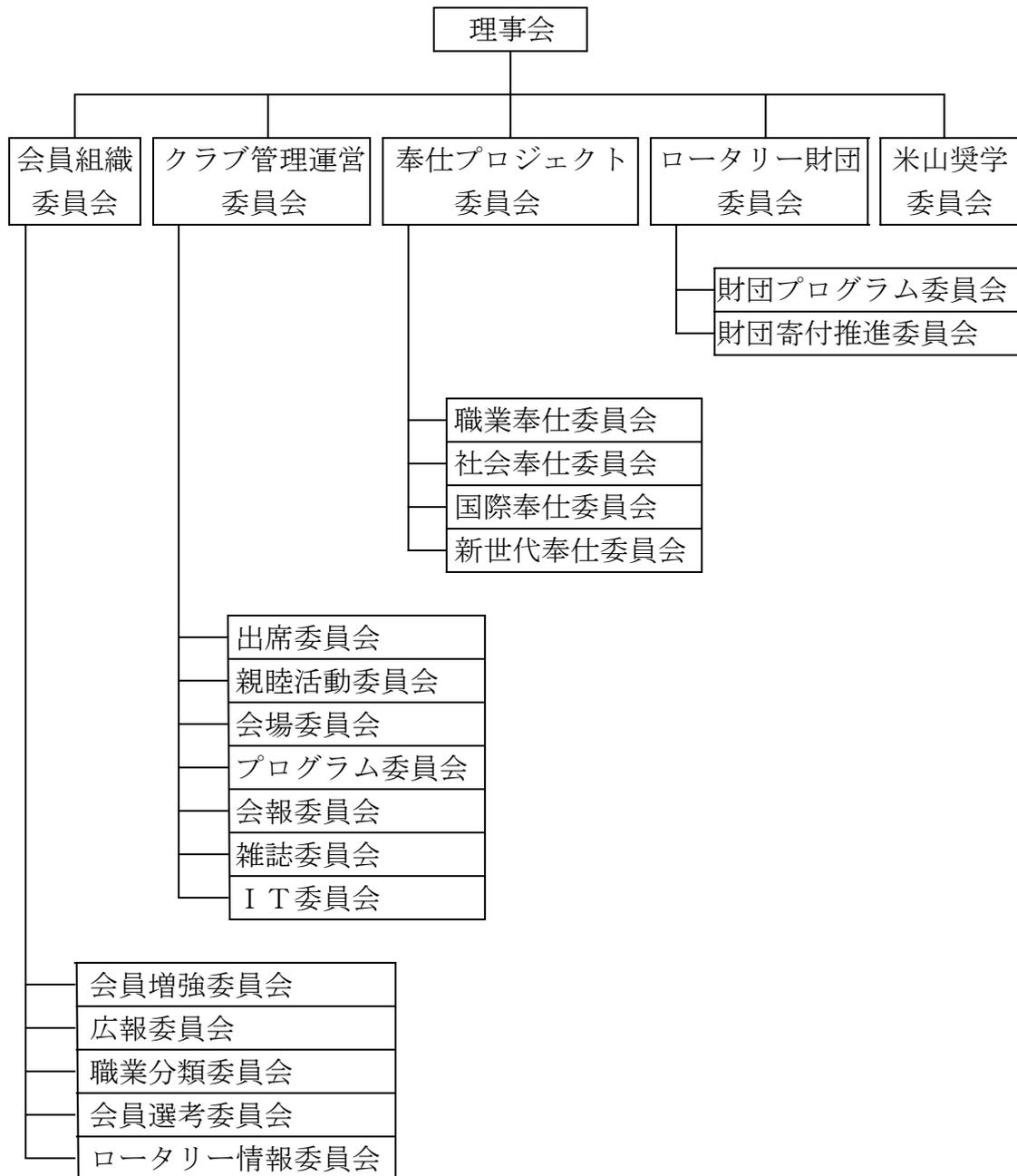
- * 奉仕プロジェクト委員会において、その年度に特に力を入れるいくつかの部門を小委員会にすることも可。(4委員会すべてをおく必要はない。) その場合、小委員長は理事とする。
- * 新世代奉仕は社会奉仕に含めてもよい。

理事会構成の例

会長	役員
会長エレクト (会員組織委員会委員長兼務)	役員
副会長 (クラブ管理運営委員会委員長兼務)	役員
幹事	役員
会計	役員
会場監督 (SAA)	役員
直前会長 (奉仕プロジェクト委員会委員長兼務)	役員
ロータリー財団委員会委員長	理事
米山奨学委員会委員長	理事
奉仕プロジェクト委員会小委員長 (1~4)	理事

2820地区CLPに基づいたクラブ委員会構成案

(十分な会員数を擁するクラブの例)



* 新世代奉仕委員会は社会奉仕委員会の小委員会も可。

理事会構成の例

会長	役員
会長エレクト（会員組織委員会委員長兼務）	役員
副会長（クラブ管理運営委員会委員長兼務）	役員
幹事	役員
会計	役員
会場監督（S A A）	役員
直前会長（奉仕プロジェクト委員会委員長兼務）	役員
職業奉仕委員会委員長	理事
社会奉仕委員会委員長	理事
国際奉仕委員会委員長	理事
新世代奉仕委員会委員長	理事
ロータリー財団委員会委員長	理事
米山奨学委員会委員長	理事

新・推奨・ロータリー・クラブ・細則

2004年度版 「手続要覧」 発行に間に合わなかった「新・推奨ロータリー・クラブ細則」

昨年6月の規定審議会で審議され、先に発行された「2004年度版 手続要覧」が6月の審議会後、新たに「CLP・・・クラブ・リーダーシップ・プラン」の導入（「DLP」地区リーダーシップ・プランの延長上、）が決議されました。これに合わせて、「2004年度版 手続要覧」黄色ページに記載されている「推奨ロータリー・クラブ細則」が大幅に改定されました。

特に、新細則 第8条「四大奉仕部門」、第9条「委員会」、第10条「委員会の任務」の項が大きく変わりました。



推奨ロータリー・クラブ細則

*

ロータリー・クラブ細則

第1条 定義

1. 理事会：本クラブの理事会
2. 理事：本クラブの理事会メンバー
3. 会員：名誉会員以外の本クラブ会員
4. RI：国際ロータリー
5. 年度：7月1日に始まる12カ月間

第2条 理事会

本クラブの管理主体は本クラブの会員_____名により成る理事会とする。すなわち本細則第3条第1節に基づいて選挙された_____名の理事、会長、副会長、会長エレクト（または、後任者が選挙されていない場合は会長ノミニー）、幹事、会計および直前会長である。

第3条 理事および役員選挙

第1節 役員を選挙すべき会合の1カ月前の例会において、その議長たる役員は会員に対して、会長（次々年度）、副会長、幹事、会計および_____名の理事を指名することを求めなければならない。その指名は、クラブの決定するところに従って指名委員会または出席全会員のいずれか一方または双方によって行うことができる。もし指名委員会を設けるように決定されたならば、かかる委員会はクラブの定めるところに従って設置されなければならない。適法に行われた指名は各役職ごとにアルファベット順に投票用紙に記載されて年次総会において投票に付せられるものとする。投票の過半数を獲得した会長、副会長、幹事および会計がそれぞれ該当する役職に当選したものと宣言されるものとする。投票の過半数を得た_____名の理事候補が理事に当選したものと宣言されるものとする。前記の投票によって選挙された会長候補は、会長ノミニーとなるものとし、その選挙の後の次の7月1日に始まる年度に、会長ノミニーのまま理事会のメンバーを務め、理事会のメンバーを務めた年度直後の7月1日に、会長に就任するものとする。会長ノミニーは、後任者の選挙が行われた後に会長エレクトの役職名が与えられるものとする。

第2節 選挙された役員および理事に直前会長を加えて理事会を構成するものとする。選挙によって決定した理事エレクトは、1週間以内に会合してクラブ会員の中から会場監督を務める者を選任しなければならない。

第3節 理事会またはその他の役職に生じた欠員は、残りの理事の決定によって補填すべきものとする。

第4節 役員エレクトまたは理事エレクトの地位に生じた欠員は、残りの理事エレクトの決定によって補填すべきものとする。

第4条 役員の仕事

第1節 会長。本クラブの会合および理事会の会合において議長を務め、その他通常その職に付随する任務を行うことをもって会長の任務とする。

第2節 会長エレクト。会長エレクトは理事会のメンバーとしての任務およびその他会長または理事会によって定められる任務を行うものとする。

第3節 副会長。会長不在の場合は本クラブの会合および理事会の会合において議長を務め、その他通常その職に付随する任務を行うことをもって副会長の任務とする。

第4節 幹事。幹事の任務は、会員の記録を整理保管し、会合における出席を記録し、クラブ、理事会および委員会の諸会合の通知を発送し、これらの会合の議事録をつくってこれを保管し、毎年1月1日および7月1日現在の半期会員報告、半期報告を提出した7月1日または1月1日より後にクラブ会員に選ばれた正会員について10月1日と4月1日現在の四半期会員報告、会員資格変更報告、毎月の最終例会の後15日以内に地区ガバナーに対して行わなければならない月次出席報告を含む、諸種の義務報告をRIに対して行い、RI公式雑誌の購読料を徴収してこれをRIに送金し、その他通常その職に付随する任務を行うにある。

第5節 会計。会計の任務は、すべての資金を管理保管し、毎年1回およびその他理事会の要求あるごとにその説明を行い、その他通常その職に付随する任務を行うにある。その職を去るに当たっては会計はその保管するすべての資金、会計帳簿、その他あらゆるクラブ財産を、その後任者または会長に引き継がなければならない。

第6節 会場監督。会場監督の任務は通常その職に付随する任務、およびその他会長または理事会によって定められる任務とする。

*注：本細則は単に推奨されるにすぎない。従って、ロータリー・クラブは、標準ロータリー・クラブ定款、RI定款、RI細則、およびロータリー章典と矛盾しない限り、クラブ自身の事情に応じて変更することができる。もし疑問ある場合は、その変更案をRI事務総長に提出してRI理事会の審議を乞わなければならない。

第5条 会合

第1節 年次総会。本クラブの年次総会は毎年_____に開催されるものとする。そしてこの年次総会において次年度の役員および理事の選挙を行わなければならない。

(注：標準ロータリー・クラブ定款第5条第2節は、「役員を選挙するための年次総会は、12月31日もしくはそれ以前に開催されなければならない」と規定している)

第2節 本クラブの毎週の例会は_____曜日_____時に開催するものとする。

例会に関するあらゆる変更または例会の取消はすべてクラブの会員全部に然るべく通告されなければならない。本クラブの瑕疵なき会員はすべて、名誉会員（または標準ロータリー・クラブ定款第8条第3節および第4節の規定に基づき、出席を免除された会員）を除き、例会の当日、その出席または欠席が記録され、その出席は、本クラブまたは他のロータリー・クラブにおいて、その例会に充当された時間の少なくとも60パーセントに出席していたことが実証されるか、もしくは標準ロータリー・クラブ定款第8条第1節と第2節の規定によるものでなければならない。

第3節 会員総数の3分の1をもって本クラブの年次総会および例会の定足数とする。

第4節 定例理事会は毎月_____に開催されるものとする。臨時理事会は会長が必要ありと認めたとき、または2名の理事からの要求があるとき、会長によって招集されるものとする。但しその場合然るべき予告が行われなければならない。

第5節 理事の過半数をもって理事会の定足数とする。

第6条 入会金および会費

第1節 入会金は_____とし、入会承認に先んじ納入すべきものとする。

第2節 会費は年額_____とし、各半年ごとの各支払額のうちの一部は各会員のRI公式雑誌の購読料に充当するという諒解の下に、毎年2回7月1日および1月1日に納入すべきものとする。

第7条 採決の方法

本クラブの議事は、役員および理事を投票によって選挙する場合を除き、*口頭による採決をもって処理されるものとする。理事会は、特定の決議案を、口頭ではなく投票により処理することを決定することができる。

(注：口頭による採決とはクラブの投票が発声方式での同意によって行われた場合と定義する)

第8条 四大奉仕部門

四大奉仕部門は、本ロータリー・クラブの活動のための理念と実践の枠組みである。それはクラブ奉仕、職業奉仕、社会奉仕、および国際奉仕である。本クラブは、四大奉仕部門の各部門に積極的に取り組むこととする。

第9条 委員会

クラブ委員会は、四大奉仕部門に基づいた年次および長期的な目標を推進する責任を持つ。会長エレクト、会長および直前会長は、指導の継続と計画の引継ぎを確約するために、協力すべきである。一貫性を保持するため、実行可能であれば、委員会委員は同じ委員会に3年間留任されるべきである。会長エレクトは任期が始まる前に、委員会の空席を補填するために委員を任命し、委員会委員長を任命し、企画会議を設ける責務がある。委員長は委員会委員としての経験者を任命することが推奨される。常設委員会の任命は次の通りである。

会員増強・退会防止委員会 この委員会は、会員の勧誘と退会防止に関する包括的な計画を立て、実施するものである。

クラブ広報委員会 この委員会は、一般の人々にロータリーについての情報を提供し、クラブの奉仕プロジェクトと奉仕活動を推進する計画を立て、実施するものである。

クラブ管理運営委員会 この委員会はクラブの効果的な運営に関連する活動を実施するものである。

奉仕プロジェクト委員会 この委員会は、地元地域社会および他国の地域社会におけるニーズに応える教育的、人道のおよび職業的プロジェクトを企画し、実施するものである。

ロータリー財団委員会 この委員会は、資金的寄付とプログラムへの参加を通じてロータリー財団を支援する計画を立て、実施するものである。

その他、必要に応じて特別委員会を設けることができる。

- (a) 会長は、職権上すべての委員会の委員となるものとし、その資格において委員会に付随するあらゆる特典をもつものとする。
- (b) 各委員会は本細則によって付託された職務およびこれに加えて会長または理事会が付託する事項を処理すべきものとする。理事会によって特別の権限を与えられた場合を除き、これらの委員会は、理事会に報告してその承認を得るまでは行動してはならない。

(c) それぞれの委員長はその委員会の定例会合に対して責任をもち、委員会の仕事を監督、調整する任務をもち、委員会の全活動について理事会に報告するものとする。

(注：上記の委員会構成は、地区リーダーシップ・プランおよびクラブ・リーダーシップ・プランに沿ったものである。クラブは、その奉仕と親睦のニーズを満たすために必要な委員会を設置する裁量権をもつ。そのような任意の委員会の見本一覧表は、「クラブ委員長の手引き」に記載されている。クラブは必要に応じて、独自の委員会構成を考案することができる)

第10条 委員会の任務

会長は、その任期中の諸委員会の任務を確定し、評価するものとする。各委員会の任務を発表するにあたり、会長は既存の適切なRI文書を参照するものとする。奉仕プロジェクト委員会はその年度計画を考案する際、職業奉仕、社会奉仕および国際奉仕の部門を考慮することとする。

それぞれの委員会は、具体的な権限、明確な目標、および各年度の初めにその年度内に実施する行動計画を設定するものとする。上述の通り、ロータリー年度の開始に先立ち、クラブ委員会のための推奨事項、委託任務、目標、計画に関し理事会に対し説明発表するための準備を整えるにあたり、必要な指導を施すのは会長エレクトの主要責務である。

第11条 出席義務規定の免除

理事会に対して書面をもって、正当かつ十分な理由を具して申請することによって、会員は出席義務規定の免除が与えられ、一定期間を限り本クラブの例会出席を免除される。

(注：このような出席義務規定の免除は会員身分の喪失を防ぐためのものである。しかし本クラブに対してその会員を出席同様にみなすためのものではない。その会員が他のクラブの例会に出席しない限り、出席を免除された会員は欠席と記録されなければならない。但し標準ロータリー・クラブ定款第8条第3節および第4節の規定に基づいて認められた欠席は本クラブの出席記録に算入されない)

第12条 財務

第1節 各会計年度の開始に先立ち、理事会はその年度の収支の予算を作成しなければならない。その予算は、これらの費目に対する支出の限度となるものとする。但し、理事会の議決によって別段の指示がなされた場合はこの限りでない。予算は2つの部分に分けられるものとする。すなわち、クラブ運営に関する予算と、慈善・奉仕活動運営に関する予算である。

第2節 会計は本クラブの資金をすべて理事会によって指定される銀行に預金しなければならない。クラブ資金は2つの部分に分けられるものとする。すなわち、クラブ運営と奉仕プロジェクトに関する資金である。

第3節 すべての勘定書は、会計、または理事もしくは権限をもつ役員2名の承認を受けたその他の役員によって支払われるものとする。

第4節 すべての資金業務処理は、毎年1回有資格者によって全面的な検査が行われるものとする。

第5節 資金を預りあるいはこれを取り扱う役員は、本クラブの資金の安全保管のために理事会が要求する保証を提供しなければならない。保証の費用は本クラブが負担するものとする。

第6節 本クラブの会計年度は7月1日より6月30日に到る期間とし、会費徴収の目的のために、これを7月1日より12月31日に至る期間および1月1日より6月30日に至る期間の二半期に分けるものとする。人頭分担金とRI公式雑誌購読料の支払は、毎年7月1日および1月1日に、それぞれ当日の本クラブ会員数に基づいて行われるものとする。

第13条 会員選挙の方法

第1節 本クラブの正会員によって推薦された会員候補者の氏名は、書面をもって、本クラブ幹事を通じ、理事会に提出されるものとする。移籍する会員または他クラブに属していた元クラブ会員は、元クラブによって正会員に推薦されてもよい。この推薦は、本条に別な定めのある場合を除き、漏らしてはならない。

第2節 理事会は、その被推薦者が標準ロータリー・クラブ定款の職業分類と会員資格の条件をすべて満たしていることを確認するものとする。

第3節 理事会は、推薦状の提出後30日以内にその承認または不承認を決定し、これをクラブ幹事を通じて、推薦者に通告しなければならない。

第4節 理事会の決定が肯定的であった場合は、被推薦者に対し、ロータリーの目的および会員の特典と義務について説明しなければならない。この説明の後、被推薦者に対し、会員申込用紙に署名を求め、また、本人の氏名および本人に予定されている職業分類をクラブに発表することについて承諾を求めなければならない。

第5節 被推薦者についての発表後7日以内に、理事会がクラブ会員（名誉会員を除く）の誰からも、推薦に対し、理由を付記した書面による異議の申し立てを受理しなかった場合は、その人は、名誉会員でないなら、本細則に定める入会金を納めることにより、会員に選ばれたものとみなされる。

理事会に対し異議の申し立てがあった場合は、理事会は、次の理事会会合において、この件について票決を行うものとする。異議の申し立てがあったにもかかわらず、入会が承認された場合は、被推薦者は、名誉会員でないなら、所定の入会金を納めることにより、クラブ会員に選ばれたものとみなされる。

第6節 このような選挙後に、クラブ会長は、当該会員の入会式を行い、当該会員に対して会員証を発行し、ロータリー情報資料を提供するものとする。その他、会長もしくは幹事が新会員に関する情報をRIに報告し、会長が、当該新会員がクラブに溶け込めるよう援助する会員を1名指名し、同新会員をクラブ・プロジェクトまたは行事に配属する。

第7節 クラブは、標準ロータリー・クラブ定款に従い、理事会により推薦された名誉会員を選ぶことができる。

第14条 決議

クラブは、理事会によって審議される前に、本クラブを拘束するいかなる決議または提案を審議してはならない。もしかかる決議または提案がクラブの会合で提起されたならば、討議に付することなく理事会に付託しなければならない。

第15条 議事の順序

開会宣言

来訪者の紹介

来信、告示事項およびロータリー情報

委員会報告 (もしあれば)

審議未終了議事

新規議事

スピーチその他のプログラム

閉会

第16条 改正

本細則は、定足数の出席する任意の例会において、出席会員の3分の2の賛成投票によって改正することができる。但し、かかる改正案の予告は当該例会の少なくとも10日前に各会員に郵送されていなければならない。標準ロータリー・クラブ定款およびRIの定款、細則と背馳するとき改正または条項追加を本細則に対して行うことはできない。